

書名：風の旅

著者：星野富弘

出版社：立風書房

出版年月：1982年1月

総ページ数：67ページ

ISBN：4651110118



推薦者

木下光二

鳴門教育大学大学院教授

教員養成特別コース

“風の旅”という詩画集に出会ったのは、小学校に勤務して3年目の時でした。当時、一緒に勤務していた先輩から教えて頂いたのが最初でした。それ以来、教室の私の机の上にはいつもこの本が置かれていました。子ども達に読みなさいということは言いませんでした。置いてあることに気がついた子どもがページを開き、「先生、借りてもいいですか？」ということから毎年、星野富弘さんの生き方について考える活動へと広がっていくのでした。

子ども達が読んだ感想は日記に記され、その感想は学級通信“なずな”に掲載していました。次から次へと子ども達の手を渡り、いつの間にか星野さんの思いが子ども達の中に入って行く。それが私の学級経営の1つでした。それは、道徳教育であったり、人権教育であったり、総合的な学習の時間であったりしました。毎年、子ども達の興味の持ち方によってその方向性が少しずつ違っていったように思います。ただ、伝えたいことはいつもきまって同じでした。たくさんの詩画集の中で子ども達がとても好きだった詩画が、次の“なずな”でした。

神様がたった一度だけこの腕を動かして下さるとしたら、母の肩をたたかせてもらおう。風に揺れるぺんぺん草の実を見ていたら、そんな日が本当に来るような気がした。

どのような本でも構いません。教室の机の上における1冊があることが子ども達の学びを方向付ける1つとなり得るということをお覚えておいてもらえたらと思います。

